

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大 学 名	慶應義塾大学
整理番号	A12
構 想 名	「実学（サイエンス）」によって地球社会の持続可能性を高める

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) 本構想は、学術研究とSDGsの社会実装を共に高いレベルで達成しようとするものであり意欲的な取り組みである。「長寿」、「創造」、「安全」の3本柱で取り組むとのビジョンを掲げ、様々な側面からの取り組みをバランスよく進めていることは評価できる。 推進体制として、グローバルアドバイザーカウンスルの設置で国際的に著名な研究者の意見を取り入れることによる学長のガバナンス確保、クロス・アポイントメント制度による海外副指導教授の学位研究指導を通して将来の国際的活躍の基盤形成、そして、上記の3本柱を定めることにより実質的に全学の各分野の参加を可能とし、大学を挙げての取り組みとしていることなど、他大学にも波及可能な手法を採っていることは高く評価できる。また、ジョイントディグリー、ダブルディグリーなどの拡充も高い国際的評価の結果であると思われる。 研究強化分野としてSDGsに関わる「長寿」、「創造」、「安全」を掲げることは、社会の要請にも応えるものであり適切である。そのため、より魅力あるビジョンを掲げ、産官民を巻き込んだ大きなエコシステムを構築し社会実装に繋げてほしい。 海外の300を超える有力大学との協定締結は秀でており、大学の国際競争力を高める基点となり得る。海外拠点を生かす運営・支援体制を整え、研究及び教育の両面の強化に繋げる有効な戦略を立案し実行することを期待する。 一方、教職員に占める女性の比率の数値目標を達成できていることは評価できるが、教員・専任職員等の国際化や、学生の流動性の目標のうち達成できていない数値目標もあり、今後の慶應義塾大学ならではの取り組みを期待したい。 財政支援期間終了後を見据えた自走化に関しては、慶應義塾大学が得意とする国内外のネットワークを基盤とした支援など、これまでの取り組みの強化による対応は実現性があると思われる。さらに継続的な事業の推進を可能とする具体的な手法を、残りの期間で示すことを期待したい。	